

# マグロ類漁獲実態調査

(日本周辺高度回遊性魚類資源対策調査)

田中伸和・藤川裕司・石田健二・若林英人\*

## 1. 研究目的

資源管理に必要な知見が十分でない日本周辺におけるマグロ類の漁獲データと生物学的情報の収集および解析を行い、マグロ類の資源評価に必要な基礎資料を整備する。漁獲状況などの収集は21道府県が協力して実施し、データ集計と解析は日本エヌ・ユー・エス（株）が担当する。

## 2. 研究方法

浜田、五十猛、大社、北浜、恵曇、浦郷の各漁協の販売統計書からクロマグロ、ビンナガ、メバチについて、月別、漁業種別、漁獲量の集計を行った。なお、クロマグロについては、体重 20kg 以上の個体をマグロ、体重 20kg 未満の個体はヨコワとして別途集計を行った。また、浜田、五十猛、大社漁協については漁獲尾数の集計も行った。さらに、浜田港、五十猛港、江津港に水揚げされたヨコワおよびコシナガの測定（尾叉長、体重、生殖腺重量など）を実施した。

## 3. 研究結果

- 主要 6 市場（浜田、五十猛、大社、北浜、恵曇、浦郷）における平成 10 年のクロマグロ及びコシナガの漁獲量は約 413 トン（前年比 76%）と平成 9 年を下回った。
- マグロが漁獲されたのは定置網漁業だけで、主要 6 市場のうち浜田、大社、恵曇の 3 市場で水揚げされた。平成 10 年の漁獲量は約 0.6 トンで前年の 6.6 トンを大きく下回った。
- マグロは例年どおり 5 月と 6 月に漁獲された。魚体は 20～80kg の小型個体（40kg 級が主体）で、100kg 超える大型個体はみられなかった。
- 曳縄釣のヨコワ漁は例年どおり 10 月上旬に始まったが、漁獲量は 12 月に入り急激に増加した。そのピークは昨年に比べ約 1 ヶ月遅い 12 月下旬にみられたが、漁期は例年より長く続いた。
- 大中型まき網漁業によるヨコワの水揚げは本格的には 5 月以降にはじまり 12 月まで続いた。漁獲のピークは 7 月にみられ、前年みられた 10 月を中心とした秋期のピークはなかった。
- 定置網漁業によるヨコワの水揚げは 5 月から 12 月にかけてみられた。このうち、7 月と 10 月頃にピークらしいものがうかがえるが、前者はコシナガ、後者はヨコワによるものと推察される。
- 大中型まき網漁業によるヨコワの漁獲サイズは 7 月までは 4～5kg、8 月は 10 月では 6～8kg、11 月は 3～4kg の個体が主体であった。曳縄釣では漁期初めには 3～4kg 主体に 1～2kg の個体であったが、12 月に入り 3～5kg のものが主体となった。

---

\* 島根県栽培漁業センター